

## 庭の花に 癒やされて

ハス池の近くに住む、楠田<sup>くすだ</sup>洋子<sup>ようこ</sup>さんに出会いました。地域のシンボリックな古代ハスの花も見事ですが、楠田さん宅の庭に咲く花々にも心が癒やされます。

真っ赤な大輪のフヨウ、キキョウやセージの花など、季節ごとにさまざまな花を育てています。「花のある暮らしは、心が安らぎます。好きな花はいろいろあるけど、宿根草が多い

真っ赤なフヨウの花



涼しげなキキョウも咲いていました



いですかね」と楠田さんは庭に目を向けます。

看護師の資格を持つ楠田さんは現在、週に数日、保育所で会計年度任用職員として子どもたちを見守っています。「庭の花を摘んで保育所を持っていると、心が癒やされます」と喜んでくださいます。

手入れが行き届いた楠田さんの庭で立ち話をしていると、ハス池からの涼やかな風が立ちました。

## とにかく明るい 恵美子さん

「生粋の堂園<sup>うえみこ</sup>つ子」と自負する田上恵美子<sup>うえみこ</sup>さんに出会いました。専業農家の次女として生まれた恵美子さんは、現在、実家の生業<sup>なりわい</sup>を守り継いでいます。「幼い頃から両親について、田んぼや畑に行くのが好きだったんです」と恵美子さん。高校卒業後、福岡の短大に進学する際に恵美子さんの両親は「農家を継ぐことを約束するのなら、家を出てもいい」と

軽快なトークで会話を弾ませる恵美子さん



いう条件を出したそうです。「農繁期になると帰省して手伝いをしました。出席日数が足りなくなると、危うく単位を落としそうになりましたね」と笑って当時を振り返ります。

結婚後も両親と同居し、昨年86歳で亡くなった父の範明<sup>のりあき</sup>さんと田畑を守ってきたという恵美子さん。現在は、一人で米やクリ、ゴーヤを栽培しているそうです。「田植えや稲刈りなど、親戚や知り合いの人たちに助けてもらっています。どうにかなるもんです」ととにかく明るい恵美子さんです。近ごろはちまたで人気の多肉植物の栽培もスタートさせました。フリーマーケットのイベントなどで「ピエニ」という看板を上げて販売しているとのこと、これから人気を集めそうですね。

そんな恵美子さんの趣味は、なんと「パイナップル作り」。なんでも、16年前に64歳で亡くなった母のマシ子

恵美子さんの畑の一角のビニールハウスには多肉植物がいっぱい



上／おいしく熟した恵美子さんのパイナップル  
右／趣味で栽培しているというパイナップル



ゴーヤもどんどん出荷されています  
秋にはおいしいくりも実ります

